

HVLT

the Hiroshima YMCA Letter for the Teachers of Japanese Language

第2号



- 特集 (日本語教育能力検定試験)
- ただ今受講中！！
- 講師の先生から
- 現場から
- 卒業生の声
- 情報コーナー

目指せ合格！ 日本語教育能力検定試験 申し込み開始！

広島YMCA日本語学科講師

藤井 慶子



今年も日本語教育能力検定試験の受付が始まりました。公的な機関などの教師募集では、応募資格の一つに数えられるのでぜひとも合格しておきたい試験です。そこで今回は、去る6月19日に行なわれた、「日本語教育能力検定試験 直前対策」の説明会から、試験にチャレンジされる方へのアドバイスをひろってみました。

◇ 広がった出題範囲 (<http://www.jees.or.jp/jltct/range.htm>参照)

コミュニケーションを核として、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」「言語と教育」、「言語」の五つの区分から問題が出題されます。

◇ 基本的な知識を問われる試験Ⅰ

昨年の試験では、すべての範囲から出題されました。問題数が多いわりに時間が少ないので、とにかく時間を無駄にせず、手際よく問題に答えることが大切です。

◇ 同じ問題形式での出題がある試験Ⅱ

音声を聞いて答える試験Ⅱでは、毎年必ず出される問題に慣れておきましょう。また、昨年は、聴解テストの評価の問題も出題されました。

◇ 応用力問題中心の試験Ⅲ

試験Ⅲは「区分横断的」。二つ以上の分野にまたがった問題が出題されます。最後に記述問題があるので、そのための時間も残しておきましょう。

◇ 合格の秘訣は過去問題

平成 15 年、14 年の 2 年分は過去問題をやって、出題の傾向をつかんでおきましょう。時間をはかって、一問につきどのくらい使えるかを知っておくのも大切です。ほぼ 18~19%に保たれている合格率。記述以外の部分で 70%以上は確保したいもの。試験経験者は結果の数値を参考に、初めて受ける方はまず、過去の問題に挑戦して足りない部分を補っていきましょう。

*** 日本語教育能力検定試験合格手記 ***



村上 恵理子

新シラバスでの最初の試験となった昨年の試験でようやく合格した。試験勉強は早くから取り掛かるつもりだったが、結局本格的な勉強をはじめたのは試験の 2 ヶ月前だった。時間的に複数の問題集をこなすのは無理だったので、アルク出版の「合格するための本」だけにしぼり、これだけは完全に制覇することにした。仕事が少ない時期だったので、集中して一気に勉強し、キーワードごとに要点を整理したノートを作った。3 週間でその本を一通り終えた。やがて、仕事が忙しくなり、あまり勉強する時間が取れなくなったが、それから試験当日までは、時間さえあればそのノートに目を通し、ひたすら覚えた。音声は、私の苦手分野であり、新シラバスでは出題傾向が変わるので、どのように勉強を進めようか悩んだが、とりあえず、従来の問題だけは完ぺきにできるようにしようと考えた。それで、2 ヶ月間はほぼ毎日 CD を聞き、音声記号表は完全に頭の中に入れた。

このように、自分なりに最善をつくして臨んだ試験だったが、新しい試験は、出題範囲も広がり、想像以上に専門的になっていた。合格することは、まず無理だと思った。

しかし、試験から 2 ヶ月後、思いがけず合格証書を手にする事ができた。今思えば、出題範囲がしぼれない手探りの状況であっても、基本的な事柄をしっかりおさえて臨んだのが、合格につながったのだと思う。

●● 情報コーナー ●●

日本語教育能力 検定試験

試験日 : 10月17日(日)

受験料 : 10000円

申し込み: 6/20~7/30(金)

当日消印有効

願書は一部400円

全国の主要書店で受験案内を販売しています。受験を考えている方はお早めに手続きを済ませてください。

詳細は主催団体の日本国際教育協会のホームページ

(<http://www.aiej.or.jp/>)

(<http://www.jees.or.jp/>)

(<http://www.jees.or.jp/jltct/index.htm>)をご覧ください。

日本語教育能力 検定試験

直前対策講座開講

広島YMCA日本語教師養成講座

7月14日から全8回

水曜又は土曜で開講

検定試験を受験される方はぜひ受講してください。ポイントを取り上げていきます。

目指せ合格！！

皆さんの合格のお手伝いをさせていただきます。

お問合せ : 082-223-1292

申込み hyj@hymca.jp

●● 講師の先生から ●●



広島大学大学院教育学研究科助教授

横溝 紳一郎先生

広島YMCAでお話をさせていただくとき、私はいつも、自分が日本語教師になることを目指して、アルバイトをしながら民間の養成講座に通っていた頃の自分を思い出します。養成講座に通い始めるまで、私は日本語や日本語教育の知識は全くゼロでした。留学先のサンディエゴで、友人に『私は学生です』と『私が学生です』の違いって何?』と聞かれて、全く答が思いつかず、「は is は、が is が、okay?』と、その場しのぎで答えたときの友人のあきれた/残念そうな顔が今でも忘れられません。そんな悔しい思いを胸に、ちょっぴりの不安を抱えながら、日本語教育という世界に入ったのですが、「どのくらいこの世界にいるのかなあ」と先日指折り数えてみると、ナントもうすぐ20年になろうとしているではありませんか。「無我夢中で充実しているときは、時の経つのがはやい」とは、よく言われることですが、確かにあつという間だったと思います。

では、なぜ私はこれまで無我夢中でいられたのでしょうか?その原因はきっと、「日本語教育の難しさと面白さ」なのでしょう。当たり前のように、日本語を教えるのですから、日本語についての知識がなければ困ります。また、それを外国の方々に教えるとなると、ことばについての知識だけでは、とてもとても足りません。教え方、学習者の心理、日本社会・文化などについての知識に加えて、自分の日本語自体もきちんとしたものでなければなりません。加えて、日本語学習者とともに、よい学習環境を作り上げていくための「クラスルーム運営能力」も求められます。「いい日本語の授業」をするためには、これだけたくさん

のことを身につけることを意味します(もっと他にもあるかと思いますが)。受講生の皆さんには、この事実を「ハードルが高いなあ」と捉えるのではなく、「色々学ぶことがあるんだなあ、よし、一つずつ自分のペースでしっかりと学んでいこう」と捉えていただきたいと思います。そのくらい奥深い世界です、日本語教育って。でも、どんなにどっぷり浸かって、きっと飽きることのない世界でもあります。そんな日本語教育の難しさと面白さを、みんなで探究していけたらいいですね!

養成講座 公開講座

広島YMCA日本語教師養成講座

「多文化理解と心理」

春原 憲一郎先生

(海外技術者研修協会)

7月3日(土)・4日(日)

お問合せ・申込み

広島YMCA国際ビジネス専門学校

TEL : 082-223-1292

FAX : 082-227-3876

hyj@hymca.jp

ブラッシュアップ セミナー

「ことば」を支える

「こころ」のメカニズム

一言語心理学の港から

日本語教育の世界へー

講師：松見法男先生

(広島大学大学院)

日時：9月18日(土)

1:30~3:30

場所：広島YMCA 1号館

参加費：2000円

お問合せ・申込み

広島YMCA国際ビジネス専門学校

TEL : 082-223-1292

FAX : 082-227-3876

hyj@hymca.jp

●● 卒業生の声 ●●



安宅 恭子

(現在北京でご活躍中!)

「HYLT」の創刊おめでとうございます。

私が日本語教育に携わることになったのは、1990年、本講座の開講半年前に、中国から来た医療研修生への日本語指導を頼まれたのがきっかけでした。教え始めたものの日本語文法の説明など難しく感じ、開講されることを知って迷うことなく受講を決めました。

講座卒業後は、中国で日本語を教えるという夢を持ちつつ、技術研修生や留学生、その家族などへの日本語指導を続けていましたが、2002年秋ついに長年の夢が実現し、ここ中国・北京で大学生に日本語を教える機会を得ることができました。

ここ数年の中国の発展ぶりは多少知っているつもりでしたが、実際に来て生活し、その急速な変化には目を見張ります。大学生をみても、ひと昔前までは早朝から夜遅くまで校内で一生懸命自習していた姿が目立ちましたが、今はその殆どが携帯電話を持ち、授業中机の下でメールをうったり、インターネットバーでゲームに夢中になっていたり、と時の流れを感じます。

いま日本語を学ぶ学生の多くはコンピューターゲームや漫画から日本への興味を増しています。また、政治外交面から日本に注目している学生もいます。

単に日本語を教えるだけでなく、日本の社会、文化、日本人の考え方なども含めて、一人でも多くの人に理解してもらえよう、誠意を持ってコミュニケーションを図ることが大切だと日々実感しています。

ホームページ紹介

ひろしま平和芸術週間

(hapeace ハピース)

・缶バッジプロジェクト
・インターネットとうろう流し
・ホワイトプロジェクト etc.
世界平和と幸せを願って作られたHPです。多文化共生センターの須藤先生や、留学生もプロジェクトに参加されています。ぜひ！

<http://204.202.12.6/>

広島YMCA 日本語学科 学生生活のページ

日本語ボランティアの募集や養成講座のお知らせ、留学生の紹介や卒業生の作文などが見られます。ぜひ一度のぞいてみてください。

<http://www.hymca.jp/xjapanese>

教育ネット ひむか

教材・教具のコーナーにはきれいな絵素材が揃っています！語学教師の強い味方!!

<http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/index.html>

☆☆ ただ今受講中!! ☆☆

ひとこと



広島YMCA日本語教師養成講座受講生 黒杭昭夫

私は62歳。日本語を海外で教えたいと思っている。できれば家内と共にイタリアに滞在したい。彼女はファッションの勉強、私は日本語を教えて日伊親善。イタリアの文化にも触れたい。この実現には、かなりのエネルギーを要する。口にするだけで戦慄が走る。恥ずかしながら敢えて口にし、自分を追い詰める。家内も乗り気になり、今イタリア語教室。私も、日本語の次はイタリア語。嬉しい多忙！共に大病を患った夫婦が、体力と相談しつつ、前進中。先になって、気力・体力の衰える頃には、冬はパース（オーストラリア）で、夏はバンクーバー（カナダ）で避寒・避暑をしながら地元の人達と交わりたい。そのために、「日本語」が私たちに最良の支援をしてくれることだろう。



広島YMCA日本語教師養成講座受講生 川島 佐江子

時が経つのは早いもので、この養成講座に通い始めて1年が経ちました。当初緊張気味だった私も、今ではクラスにもなじみ、楽しく勉強させていただいています。先月は教育実習も終えて、ようやく日本語教師のイメージが湧いてきたところです。

私にとってこの講座は、日本語教育だけでなく、経験豊富なクラスの皆さんから、多くのことを学ばせていただく場でもあります。この一年でもずいぶん視野が広がりました。ここに来なければめぐり会うこともなかったかと思うと、この講座に入ってよかったなと、つくづく思います。

先のことを考えると色々不安なこともあります。今はとにかく、3月に無事卒業できるよう、精一杯勉強に励みたいと思います。

編集後記

HYLT 2号！完成致しました。いかがでしたでしょうか？こうしてまた再び、皆様にHYLTをお届けできることを、編集部一同よろこんでおります。

日本語教育に携わる多くの人々の声、声、声 …。

日本語教育と一口に言っても、立場や背景は様々。ニューズレターは決して、対話の場というわけではないけれど、多様な意見が形を持って出てくるところにもなり得るのかも知れない。そんな気も少しだけ……。

HYLT はまだまだ続きます！次号は9月末発刊の予定です。交流会の報告もさせていただきます。お楽しみに！

森下 肇

★1年間、中国四川省に行くことになりました。1年後にはもっと HYLT の輪が広がり、よりよい交流の場になっていることを願っています。

編集部 中川

★創刊号の現場からのコーナーで間違いがありました。この場で訂正させていただきます。

頻発→頻繁

現場から



財団法人ひろしま国際センター
間瀬いく

私が勤めている財団法人ひろしま国際センターでは主に広島県が招聘した技術研修員や JICA 国際協力機構が受け入れた研修員などに対して日本語研修を行っています。

様々な国から様々な目的を持って来日した研修員に、5日間から1年までの様々な期間、様々なレベル、様々な指導方法で研修を行っています。

これらの研修はすべてほかの先生方や事務担当の方々との共同作業になりますからチームワークで動くことを絶えず意識しなければなりません。研修に携わっている人とのコミュニケーションの質が、研修の成果を左右することが少なくありません。そんなわけで、このところ私は、上手に人の話を聴き、自分の意見も聞いてもらうというコミュニケーションの基本を絶えず意識しています。日本語教師ですから、日本語の話し方についてはプロのはずなのですが、これがなかなか難しいというのが実感です。どうしても自分の意見を押し通そうとしてしまったり、逆に急に妥協してしまったりで、失敗の多い日々です。特に自分と異なった意見の持ち主とどのように意見や情報の交換をし、それぞれが納得した形で仕事を行うかが問題です。より良い成果を挙げるには、他者の意見を意見として受け取り、それを客観的に分析してみるという成熟した態度が求められますが、これが本当に難しいのです。ついつい異なった意見を批判と聞いてしまうような精神的な未熟さをどのように克服していけばいいのか、目下の私の課題です。

日本語教師という魅力的な職業をこれから先何年も続けていくために私に必要なことは、自分自身の弱点や欠点を客観的に見つめ、それを克服しようとする精神的な強さ、人間としての成熟度だとこのごろ考えています。